

# しっかり読んで、ゴキゲンな釣行を!! レンタル釣具 安心ガイド

## 船釣り中深場用セット マダイ、イサキ、ブリ類のコマセバージョン

当ガイドは、「明日の釣りに必要なもの」から「釣るための準備と注意点」、「釣り方のコツ」を紹介していますので、一度通して読んで、万全な状態で釣りに出掛けて下さいね!!

### ★出掛ける前に必要な小物を購入

このリストを釣具店の店員さんに見せて用意しよう!

- お買い物リスト**
  - インターロック付きヨリモドシ  
大きさ2~3号を1~2個  
道糸とテンピンをつなぐ金具。スナップ付きヨリモドシでも可。
  - 中型片テンピン  
腕長30~50cm前後を1つ  
道糸とハリスを絡みにくし、クッションゴムの役割をする。
  - クッションゴム  
1~2本  
急激な魚の走りを吸収する道具。  
※釣る魚によって、太さや長さが変わるので、こちらも必ず船宿で確認して購入すること。
  - 仕掛け  
市販の仕掛けを2~3つ用意
  - エサ  
つけエサ...オキアミ1パック  
半日釣りならこれで充分楽しめる。エサは乗船代に含まれている場合があるので確認すること。含まれない場合は購入。
  - コマセ (マキエサ) ...1~2ブロック  
オキアミ、アミエビの2種類あるが、こちらも乗船代に含まれている場合があるので船宿で確認を! また含まれない場合は、どちらを使うかを確認して用意。
  - フィールドプライヤー 1つ  
ハリ外にも使えるハサミ。
  - 偏光サングラス 1つ  
水中を見やすくし、安全面にも役立つ釣り用サングラス。
  - ロッドホルダー、バッテリー 各1個  
●ロッドホルダー ●電動リール用バッテリー

### ★釣るための準備

釣具の特徴と正しいセッティングをマスターして快適な釣行を!

#### 【ベイトリールと電動リールの特徴】

##### ドラッグ調整も行おう

イラストにあるつまみを回して圧を調整。ファイト中、魚の引きにハリスやリーダーが耐えきれず負ける(切れる)寸前に、ラインが出るようにセットする。詳しくは、ゴールドマニュアルブック133ページをチェック!

#### ベイトリール

スプール(糸巻き)が回転して糸を巻き取るタイプ。

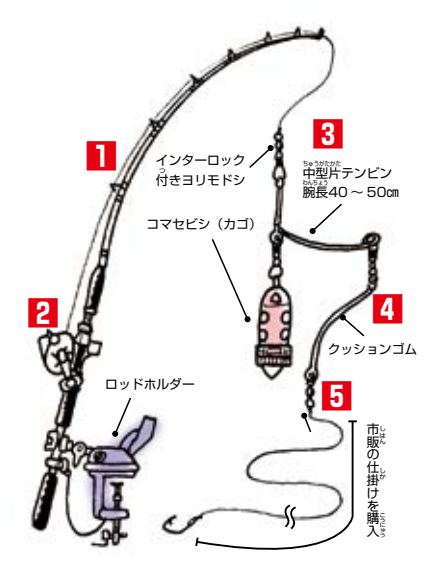
- クラッチ**: クラッチを押すとスプールの回転がフリーになる。道糸を出したい時に使う。
- レベルwind**: スプールに道糸を均等に巻く装置。ハンドルを巻くと、この部分が左右に動く。
- ドラッグ**: ハンドルを巻くためのもので、道糸の巻き取りを調整する。

#### 電動リール

ベイトリールの巻き上げを電動化したリール。

- 水深計**: 仕掛けの位置を示す。タナ合わせの目安になる。
- パワーレバー(アクセル)**: このつまみを上下させることで巻き上げスピードを調整。
- ドラッグ**: 回して道糸の出し合いを調整する。
- バッテリー**: 最近はボディと一体式になるコンパクトなリチウムバッテリーが主流。

### 【釣具のセッティング】



基本作業は、ロッドをつなぎ、道糸をガイドに通し、インターロック付きヨリモドシに結び、テンピン、ビシ、仕掛けをつなぐだけですが、ロッドの穂先(先端部)はデリケートなので、やさしく扱うこと!

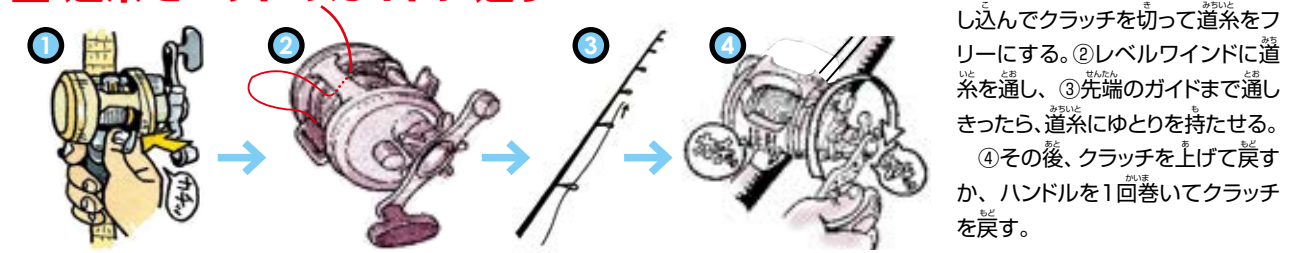
#### 1~5の順でセットしよう

#### 1 ロッドを組み立てる



穂先から順に継いでいくこと。継ぎ目の根元を持ち、ジョイント部を合わせ、軽くねじ込むように押し込む。道糸を通すガイドを一直線にすることも忘れずに!

#### 2 道糸をロッドのガイドに通す



①親指をクラッチに載せ、下に押し込んでクラッチを切って道糸をフリーにする。②レベルwindに道糸を通し、③先端のガイドまで通しきったら、道糸にゆとりを持たせる。④その後、クラッチを上げて戻すか、ハンドルを1回巻いてクラッチを戻す。

#### 3、4、5 道糸にテンピン、クッションゴム、仕掛けをセット

8の字結びの箱掛けで道糸の先端をインターロック式、またはクリップ付きヨリモドシに結び、各仕掛けを取り付ける。

#### ① 道糸で8の字結びを作る。

- ① ラインをふたつ折にする。
- ② 二重になったラインで輪を作る。
- ③ ラインがクロスする部分を左手の親指と人差し指でつかむ。
- ④ 輪の中に右手の人差し指を入れて1回転。
- ⑤ ③の④の部分の輪に通す
- ⑥ ⑤に通したラインを引っ張って締めこめば、8の字結びの完成です。
- ⑦ 外しやすいように、もうひとつ結び

取りはずしを楽にするために8の字結びをふたつ作り、ふたつ目でできた輪にインターロック付きヨリモドシを結ぼう。ひとつ目の輪を引けば、取りはずしが簡単にできる。

#### ② 箱掛けにする

- ① 8の字結びでつくった輪をヨリモドシのアイに通す。
- ② 輪を開いて、ヨリモドシをくぐらせる。
- ③ きっちり引いて、結束完了。

#### ③ 道糸以下のクリップに仕掛け類をセット

箱掛けしたインターロック付きヨリモドシのクリップに、片テンピンを付け、さらに腕先にクッションゴム、その先に仕掛けを同様にセット。

※裏面は、釣るためのテクニックを紹介!!



# 電動リールの投入、回収法

エサ取りの外側でエサを待つマダイなどは、最低でも6m以上の長いハリスを使う。これを絡ませずに投入するには、まず足元(床)に置いてあるハリスを絡ませないことが最重要ポイント。床を濡らしておくことや仕掛けを踏まないなどで対応しよう。

## 投入

1

電源が入っているかを確認し、リセットボタンで電動リールの「水深計」の数字を「ゼロ」設定にする。投入は、仕掛けを持ってクラッチを切ることから始まる。

2 テンビンの腕を滑らせ、流れるようにハリスをつかみ、ソフトにコマセカゴを海面に落とし込む。この時、クラッチを切った手は、イラストのように軽くリールをサミングして、落ち込みスピードを自分ペースになるよう調整する。

3

コマセカゴが海中に入ったら、サミングしていた手も使ってハリスをつかみ、両手でフォロロー。軽くハリスをつかみながら滑らせ、ハリスが絡みそうになったら手をシェイクして揺らし、ほくしながら落とす。

4

エサが近づいたら船べりの外に両手を出す。エサまで30cm位のところでハリスを離し、エサを落として投入終了。

5

船長が指示するタナ+ハリス分の長さまで落としたら、クラッチかハンドルを巻いて糸を止める。そしてすかさず、「底から」ボタンを押し、こちらのカウンターも「ゼロ」設定にする。

## 回収

1

仕掛けの回収、または魚が掛かったら、パワーレバーで巻き上げ開始。

2

テンピンが手元にくる位置まで巻き、ロッドをホルダーにかけ、ロッドを起こしながらテンピンをつかむ。テンピンをつかんだら、コマセバケツの中にカゴを入れて、手練りの準備に入る。

4

魚が掬えるところまで手練りで寄せたら、タモの出番。船長か仲間、隣のアングラーに頼んでくっってもらおう。魚が頭からタモに入るよう誘導するのがコツと覚えること。

# ★釣り方のコツ：マダイ、イサキ、ブリ類 編

**★ポイントはココ**  
マダイ、イサキ、ブリも岩礁帯や砂礫底周りで釣れる。マダイは比較的、底付近で、イサキやブリは根の上で良く釣れる。どれも活きた甲殻類から小魚までを好んで捕食する。

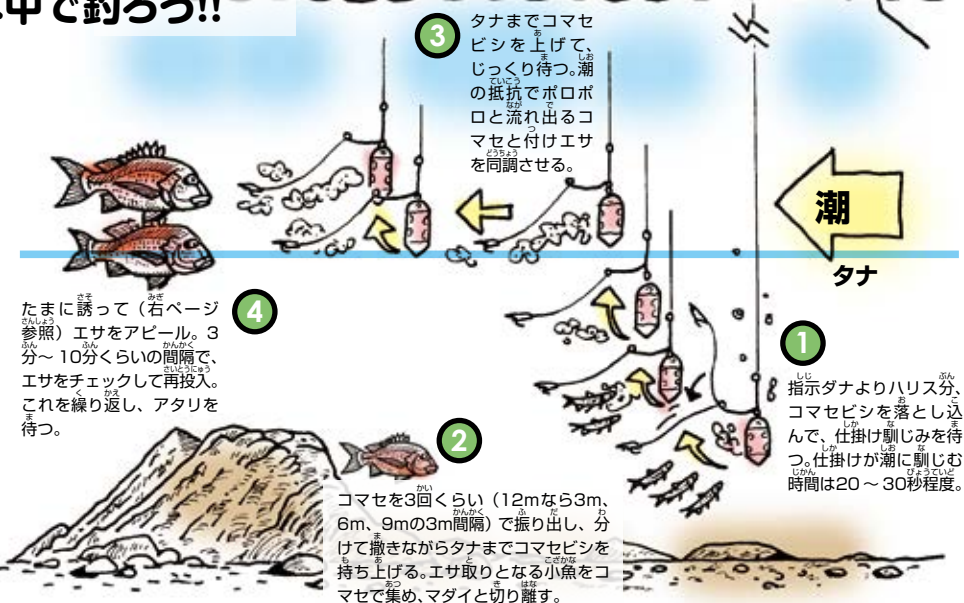
## 置き竿釣法

船長からの指示ダナにコマセビシを正確に留めて、ロッドホルダーに竿を置いてじっくり待つスタイル。10m以上のロングハリスを用いることが多いので、仕掛けの投入を慎重に行おう。

## “置き竿釣法”と“手持ち釣法”をマスターして、日本中で釣ろう!!

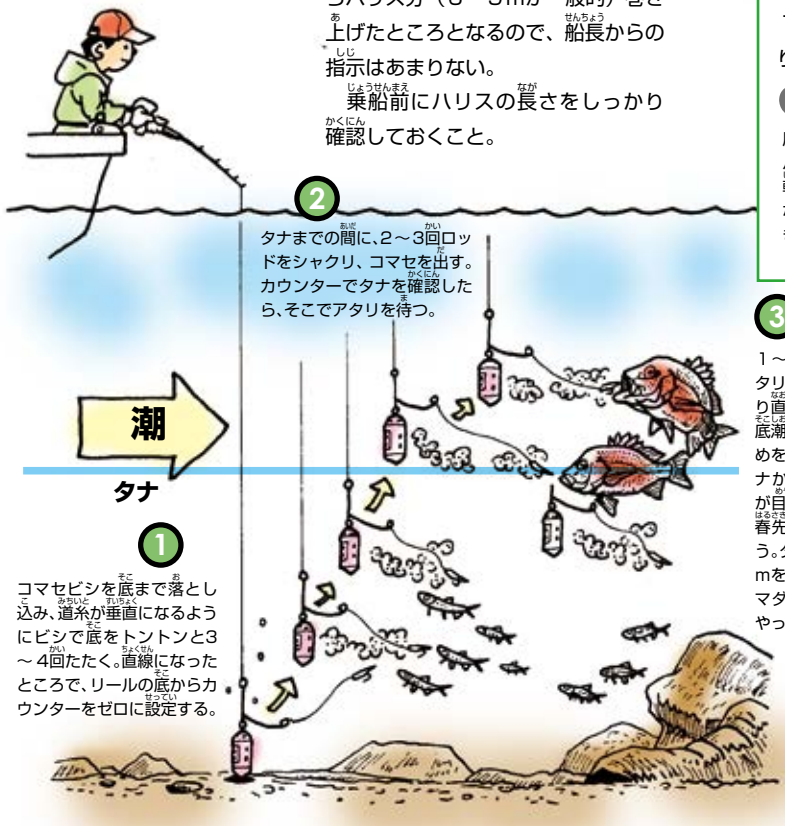
マダイのコマセ釣りをマスターすれば、イサキやブリも同様に釣れる。ここではマダイ釣りをメインに進めよう。

この釣りは、魚を狙う海域で“手持ち”と“置き竿”2通りのやり方がある。いずれも船長の指示するタナへ、コマセを何回かに分けて撒いて誘うが、若干やり方が違うので、両方覚えておこう。



## 手持ち釣法

東京湾や相模湾でお馴染みの、手でロッドを持って釣る方法。タナは底からハリス分(6~9mが一般的)巻き上げたところとなるので、船長からの指示はあまりない。乗船前にハリスの長さをしっかり確認しておくこと。



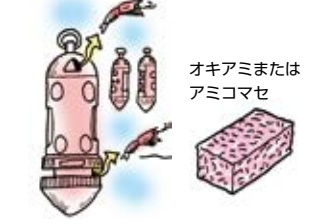
## エサとエサ付け

万能エサは、オキアミ。通常は、尾羽根を切って、1匹をハリに付ける。食いが悪い場合やエサ取りが多い場合は、抱き合わせたりする。



## コマセビシの窓はできるだけ隙間を狭くして、コマセが一気に出ないように調整

1~3分くらい待つアタリが無ければ、タナを探り直す。底潮が流れている時は、低めを探るのがセオリー。タナからマイナス1~2mが目安。底潮が冷たい時や春先は高目を探ってみよう。タナからプラス2~3mを基準に細かく探れば、マダイからのシグナルはやってくる。



比較的オキアミは置き竿釣法に、アミコマセは手持ち釣法で使われる。それぞれのコマセでビシが変わるから、乗船する船宿で必ず確認すること。コマセの分量は、どちらも8分目で詰めること。コマセの出口となる上下の窓は、できるだけ隙間を狭くするが、潮流や状況でこの隙間を調整するように!



## ※穂先絡みや巻き込み過ぎに要注意!

船釣りでは、気がつかぬうちにラインが穂先に絡まっていることが多くある。そのままキャストしてしまったりすると事故の元。豆にチェックして快適に釣りを楽しもう。また、取り込み時の仕掛け(テンピンやビシ)の巻き込み過ぎも多く見受けられる。こちらも穂先を痛めることにつながる所以要注意。穂先の20~30cmくらい手前で仕掛けを止める癖をつけよう!

## ※むやみにロッドを地面に置かない!

自分はもちろん、他人にも踏まれて折れることが良くあります。ロッドを置く場合は、荷物に立て掛けるなど、竿を自立つ場所に置くように!!



## ※かたづけ上手は、釣り上手! 返却日前日までに、しっかりお手入れを!!

レンタル釣具は、返却日までにはお手入れをし、元通りに梱包しておこう。また釣具にキズを付けたり、壊してしまった場合は、その箇所をメモに残して箱の中に入れておこう。

## ロッドをたたむ場合は...

バッド部の継ぎ目から順に外して行く。ジョイント部がキック締まっている場合は、継ぎ目の部分を持ち、雑巾を絞るようにネジリながら引くとうまく抜ける。くれぐれも先端を持って外さないこと。穂先が折れてしまうぞ。